

令和5年度(2023)アサンプション国際小学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

教育目標:「心身ともに、すこやかで愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的基本的学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

2. 強く生きる子

- (1) 基本的生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任を持ち、自主的に行動する

3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりを持ち、友だちを大切にする
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

2. 2023事業計画

【理念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す

～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着を進める

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の改良と組織化
- (3) 学術的課題…募集80名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【具体的な取り組み】

(1) 授業力の向上

- ① 研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進める。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行う。
- ② PBLが特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができるように定着させる。
- ③ iPadを「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階へ移行していく。

(2) 英語力(イマージョン)強化

- ① モジュールタイムを確保することで英語に触れる機会を増やし、バランスよく英語力を向上させる。
- ② 定期的に会議の場を持つことで、イマージョン授業においてPBLの授業を主体とするという意識統一を行う。
- ③ 中高のイマージョン部との連携し、中高との教員研修の場を持つなど更なる理解を深めていく。

(3) 幼・中高間との連携強化

- ① 幼稚園の園長推薦制のさらなる確立と内部保護者対象の説明会を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
- ② 小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、内部進学希望者の増加に努める。

(4) 宗教教育再生・強化

- ① 礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を定期的に設ける。
- ② 教員に対する宗教教育実施を行う。

3.【自己評価アンケートの結果と分析】(2024年1月実施)

保護者アンケート

<集計結果>

①学院の5つのCore Values「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「世界の平和に貢献する人材」を育てる教育が行われていましたか。

肯定 58% 否定 11% どちらでもない 31%

②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。

肯定 61% 否定 13% どちらでもない 26%

③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。

肯定 60% 否定 12% どちらでもない 28%

④児童が主体的に取り組む奉仕活動において、経験したことを深い学びにつなげられるような取り組みができていましたか。

肯定 71% 否定 8% どちらでもない 21%

⑤児童の基礎的な学力が定着できるように、日々の教育活動が進められていましたか。

肯定 53% 否定 17% どちらでもない 30%

⑥児童が個人のiPadを用意することで、教育的効果を上げるような授業が行われていましたか。

肯定 44% 否定 27% どちらでもない 29%

⑦プログラミング的思考を身に付ける授業が行われていましたか。

肯定 35% 否定 29% どちらでもない 36%

⑧日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を十分確保されていましたか。

肯定 54% 否定 15% どちらでもない 31%

⑨本校の英語教育は、4技能(話す・聞く・読む・書く)をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。

肯定 44% 否定 26% どちらでもない 30%

⑩モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につながられていましたか。

肯定 41% 否定 24% どちらでもない 35%

⑪本校の英語教育は、中高も含めた12年一貫教育として、つながりを感じられるような取り組みができていましたか。

肯定 31% 否定 28% どちらでもない 41%

⑫子どもたちの声に耳を傾けながら学級経営や教育活動が行われていましたか。

肯定 54% 否定 19% どちらでもない 27%

⑬挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導が、積極的に行われていましたか。

肯定 54% 否定 18% どちらでもない 28%

⑭学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。

肯定 57% 否定 9% どちらでもない 34%

⑮コロナ緩和後も、一部、活動に制限はあったが、児童・保護者が感動できるような行事が実施できていましたか。

肯定 70% 否定 10% どちらでもない 20%

⑯小学校だよりを通して、学校の情報を発信できていると思われませんか。

肯定 68% 否定 13% どちらでもない 19%

⑰学年通信・学級通信を通して、学年や学級の情報を発信できていると思われませんか。

肯定 66% 否定 17% どちらでもない 17%

⑱アフタースクールやメアリーズクラスは、安心して預けられる環境で実施されていましたか。

肯定 69% 否定 6% どちらでもない 25%

⑲保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような情報の発信を行うことができていましたか。

肯定 38% 否定 25% どちらでもない 37%

⑳学校は、学習ポータルサイトやブログを、情報発信の場として効果的に活用できていましたか。

肯定 39% 否定 24% どちらでもない 37%

㉑HPに掲載されているブログを、どれぐらいの頻度でご覧になられましたか。

ほぼ毎日 4% 週に1~2回程度 8% 月に1~2回程度 27% ほとんど見なかった 41% その他 20%

(アカデミックコースへの質問)

A-1 本校のアカデミックコースについて、イングリッシュコースとは違う魅力として感じられたものをお選びください。(複数選択可)

(主な回答) 落ち着いた雰囲気 26% 集団としてのまとまり 19% 正しい日本語の定着 13%

(イングリッシュコースへの質問)

E-1 本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果があると感じられますか。

肯定 54% 否定 17% どちらでもない 29%

E-2 イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。 *TT=ティームティーチング (複数の教員がチームで指導をすること)

肯定 59% 否定 17% どちらでもない 24%

<個別の意見>

- ・ 1人ひとりの学習状況をしっかり見てくださって、アドバイスや家庭学習のフォローもしてくださって大変良かった。
- ・ 学級はもちろん、アフター、メアリーズ、スクールバス全てに安心して送り出しています。学校生活での充実感を感じます。
- ・ モジュールと読書を隔日で設けるなど、読書の時間があるとありがたいです。
- ・ 連絡やお便りなど、まだまだ紙が多いと感じます。もっとメールやイントラネットに移行してほしいと思います。

教員アンケート

<集計結果>

①学院の5つのCore Values「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「世界に貢献できる人材」を育成する教育が実践できていましたか。

肯定 50% 否定 6% どちらでもない 44%

②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。

肯定 61% 否定 17% どちらでもない 22%

③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。

肯定 17% 否定 61% どちらでもない 22%

④児童が主体的に取り組む 奉仕活動において、フィードバックを行い、経験を深い学びにつなげるような取り組みができていましたか。

肯定 22% 否定 6% どちらでもない 72%

⑤児童の基礎的な学力の定着を意識して、日々の教育活動を進めることができていましたか。

肯定 61% 否定 6% どちらでもない 33%

⑥本校のアカデミックコースは、イングリッシュコースと差別化できるような魅力を打ち出すことができていますか。

肯定 29% 否定 43% どちらでもない 28%

⑦児童が個人の iPad を用意することで、教育的効果を上げるような授業ができましたか。

肯定 62% 否定 6% どちらでもない 35%

⑧プログラミング的思考を意識した授業が実施できていましたか。

肯定 12% 否定 59% どちらでもない 29%

⑨PBL を実施する上で、児童の思考の可視化を意識して指導ができていましたか。

肯定 61% 否定 22% どちらでもない 17%

⑩日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を全体の20%以上確保できていましたか。

肯定 66% 否定 12% どちらでもない 22%

⑪本校の英語教育は、4技能をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。

肯定 23% 否定 31% どちらでもない 46%

⑫モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につなげることができましたか。

肯定 38% 否定 31% どちらでもない 31%

⑬本校の英語教育において、中高と連携して12年一貫教育のつながりをもった指導ができていましたか。

肯定 30% 否定 27% どちらでもない 43%

⑭本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果がある内容で進められていましたか。

肯定 31% 否定 0% どちらでもない 69%

⑮イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。

<p>肯定 25% 否定 6% どちらでもない 70%</p> <p>⑩挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行うことができていましたか。</p> <p>肯定 72% 否定 17% どちらでもない 11%</p> <p>⑪学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。</p> <p>肯定 50% 否定 17% どちらでもない 33%</p> <p>⑫コロナ緩和後も、制限さ一部活動に制限はあったが、児童・保護者が感動できるような行事になるように指導できていましたか。</p> <p>肯定 61% 否定 11% どちらでもない 28%</p> <p>⑬本校の児童が併設中学校へ内部進学したいと感じられるような取り組みを、十分行っていましたか。</p> <p>肯定 13% 否定 49% どちらでもない 38%</p> <p>⑭保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような発信を行うことができていましたか。</p> <p>肯定 6% 否定 56% どちらでもない 38%</p> <p>⑮学習ポータルサイトやブログを使って、内部満足度を上げることへつなげられていましたか。</p> <p>肯定 7% 否定 46% どちらでもない 47%</p> <p>⑯日々の授業の向上に向けて、学年団や部会等、チームで具体的な検証が実施できていましたか。</p> <p>肯定 53% 否定 29% どちらでもない 18%</p> <p>⑰初任者が安心して活動できるように、学年が中心となってチームで取り組むことができましたか。</p> <p>肯定 40% 否定 27% どちらでもない 33%</p> <p><個別の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モジュールタイムの再検討が必要だと感じる。 ・授業の切り替えや、宿題の提出など、基本的な生活習慣の定着をさせられなかった。 ・学院全体での情報共有をもっとするべき
分析
<p>①～④の質問については、本校の建学の精神、教育理念に関する項目であり、約 60%の保護者の方から肯定的な評価をいただいた。多くの保護者の方に本校の精神・教育理念をご理解いただいているものと考えられる。一方で、「どちらでもない」や否定的な評価もまだまだ多いと感じている。今年度は新型コロナウイルスが 5 類への移行したことを機に、前年度と比べて、チャリティ・デーや全校礼拝、全校奉仕などの宗教的行事もコロナ前の形にほぼ戻り、学校全体で宗教行事を進めることができた。この結果を受け止め、改めて本校が大切にしている心の教育について教職員で再確認し、来年度以降の教育につなげていけるよう努めていく。</p> <p>次に、本校では、教育活動において、従来の教育スタイルによる基礎学力の定着を進めると同時に、PBL（課題解決型学習）や ICT 活用による思考力、表現力の向上にも努めてきた。子どもたちは、日々授業の中で、多くの刺激を受けながら教育活動を受けているが、普段の様子がもっと知りたいというコメントも保護者アンケートでいただいた。来年度は、今年度以上にブログや学級通信などの充実を図り、保護者の方にも普段の様子が伝えられるように進めていく必要がある。</p> <p>⑫については、低学年、中学年、高学年で多少の差が見られた。⑬は、学年があがるごとに、評価が下がる傾向にある。学年による成長や心の状態の差が年代ごとに異なるので、そのあたりを意識しながら教育を進めていく必要がある。また、全体的に言葉遣いの乱れが見られるように感じる。インターネットの利用が影響していることも考えられるので、学校と家庭とが連携してリテラシー教育を充実していく。</p>

4. 本年度の取組内容及び自己評価

今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
(1) 授業力向上	①研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進める。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行う。	学期に一回、国・算の授業研究会を実施する。また、公開授業も随時行い、教員の授業力向上に向けた研修を進める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 教科による研究授業は実施できていたが、参加できる教員も限られており、全員で教育内容について振り返るのが難しい場となっていた。場の持ち方を再度検討する必要がある。
	②PBL が特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができるよう定着させる。	PBL の共通理解を深める研修を実施する。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 1 学期には全教員対象の PBL 研修を行うことができたが、2 学期以降に継続して全教員で行う研修ができなかった。

	③iPad を「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階へ移行していく。	情報担当の教員を中心に、ICTを活用しやすい環境を整えたり、実践を共有できるような研修を計画したりする。 (判定:○、△、×)	【結果】○ どの学年も、iPad を活用した授業は積極的に行われるようになった。実践報告なども行い、教員全体のスキルアップにつながった。
(2) 英語力強化	①モジュールタイムを確保することで英語に触れる機会を増やし、バランスよく英語力を向上させる。	週当たり 45 分間の英語モジュールタイムを確保し、児童の英語力向上に関する検証を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 英語モジュールタイムの時間は確保できたものの、その成果や内容については検討が必要。普段の授業の単語などの振り返りが不十分なので、強化していきたい。
	②定期的な会議の場を持つことで、イマージョン授業においてPBLの授業を主体とするという意識統一を行う。	イマージョン授業の授業研を年間で複数回行い、授業の検証を進める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ イマージョン授業の授業研を実施できた。ネイティブ教員の PBL の手法について、教員全体で学ぶ機会を今後も増やしていきたい。
	③中高のイマージョン部との連携し、中高との教員研修の場を持つなど更なる理解を深めていく。	イングリッシュコースの達成目標を明確にし、12 年一貫体制の展望を持った内容の検証を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ その都度の連絡を取り合い、中高との関わりを意識した取り組みはできたが、研修会など合同で学ぶ機会を持つことができなかった。
(3) 幼・中高間との連携強化	①幼稚園の園長推薦制のさらなる確立と内部保護者対象の説明会を実施し、内部進学希望者の増加に努める。	幼稚園の内部進学制度のさらなる確立や内部保護者対象の説明会を実施し、小学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ アカデミックコース 13 名、イングリッシュコース 2 名が内部進学をすることとなった。一定数の入学が見込めるように今後も幼小の連携を進めていきたい。
	②小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、内部進学希望者の増加に努める。	小学校の校長推薦制度の実施と中学校授業への体験を実施し、併設中学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 内部進学者がアカデミックコース 11 名、イングリッシュコース 14 名となった。継続的に 25~30 名ほどは確保できているので、来年以降も続けられるように取り組む。
(4) 宗教教育再生・強化	①礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を定期的に設ける。	全校礼拝、各種宗教行事等において、神さまとの対話を通して心身共に健やかに成長させる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 全校礼拝や祈りの集いなどの宗教行事を全校児童が聖堂に集まり、共有の時間を作ることができた。
	②教員に対する宗教教育実施を行う。	シスターや外部講師を招いての宗教研修を行い、カトリック校の教員としての理解を深める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 宗教行事を経験したことがない教員が増えたこともあり、宗教行事前にシスターから職員会議等で丁寧に説明する機会が多く取れたが、宗教研修をするまでには至っていない。

5. 学校関係者評価

高学年になると、カトリックの教えを守るということに対してなかなか素直に態度に表せないようだが、思春期での捉え方もあるので、一概に態度がカトリックの教えを軽視しているかと捉えられるわけではないと感じる。現に、6年生が1年生に優しく接することができているので、それは学校の宗教教育の成果ではないかと感じている。

英語教育に関しては、学校だけにすべてを任せるのではなく、家庭でのサポートも必要だと感じる。各コースで、学校側からどのレベルまでは保証できるかを示していただけると、保護者も安心できるのではないかと感じる。特に、高学年になると単語自体も難しいものが増えるため、英語も日本語も中途半端にならないように子どもの姿をしっかり見ていく必要を感じた。(中高では、イマージョン教育の教科においても、日本語で授業する日を時間割で決めているので、日本語での理解を深める手段を小学校以上に手厚くしている。) 英語に対しては、必ず使わなければいけないものではなく、必要な時に使える手段として持っていてほしいと思う。英語が話せることで、子どもの可能性が広がると考えているので、これからも英語を頑張ってもらいたいというのが保護者の思いである。

アフタースクール・メアリーズクラスに関しては、スタッフの方々が熱心に対応してくださっているので安心していている。以前に比べ、管理体制もしっかりしている印象を受けている。講座の種類が多いのは魅力的だが、音楽系が少ないのでそのあたりが増えるとより利用しやすくなっていくと感じている。